

在家遺跡見学会資料

平成25年9月14日
熊谷市教育委員会

スマートタウン造成事業に伴い、平成25年3月から発掘調査を実施しています。今回の調査では、奈良・平安時代と中世の遺跡が確認されました。調査地点では、8世紀中頃から9世紀代にかけて、昔の役所に関連する遺構・遺物を検出しています。主な遺構としては、推定100m長の区画溝と区画されたエリア内に無数の柱穴と大型の掘立柱建物跡群及び一辺が6mを超える竪穴住居跡を検出しています。また土器廃棄遺構から、墨書・朱墨の残る土器や盤、硯など特殊な遺物も検出されており、一般的な集落とは様相が異なります。区画外のエリアでは周辺集落と考えられる竪穴建物跡や、掘立柱建物跡を検出しています。本遺跡は古代には武蔵国幡羅郡に含まれるエリアです。幡羅郡の役所跡は熊谷市・深谷市境で見つっていますが、さほど離れない地点で関連する遺跡が見つかったことで、その役割について今後、検討する必要があります。

今回見学していただく地点は、周辺集落箇所になりますが、遺構の残りがよい状況でご覧になっていただける貴重な機会です。当時の景観に思いを馳せていただければ幸いです。



① 竪穴建物跡



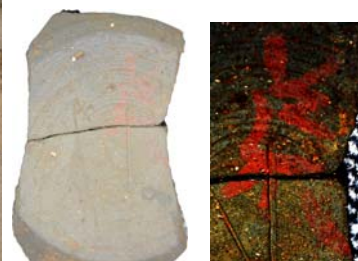
② 掘立柱建物跡



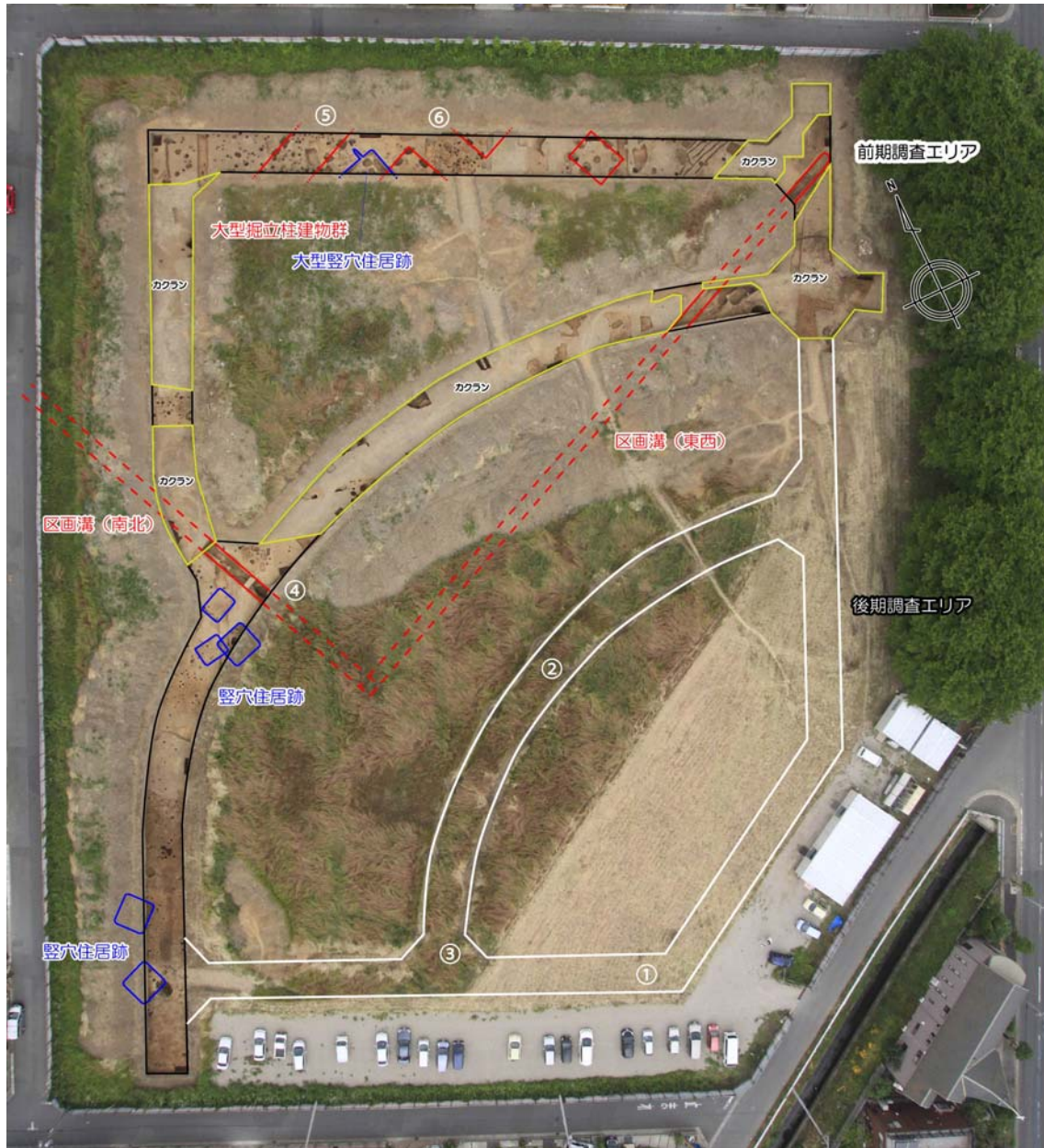
③ 掘立柱建物跡



④ 区画溝



朱墨「荒」？
(右画像・色調加工済)



遺跡全景（前期調査終了時点）



⑤ 大型掘立柱建物跡



⑥ 大型掘立柱建物跡